

# 私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合  
No.13 2016年10月26日(水)

## 9月末学費滞納調査 栃木私教連：今年も県内全14校の回答獲得!! 就学支援金2017年度見直し議論に向け全国の実態を集め「政策効果と課題」を発信しよう

全国私学の3分の一にあたる400校分のデータ集約を目標に全国で取り組んでいる「9月末学費滞納調査」。各県から調査結果が集まってきています。栃木私教連では今年も県内全私学を訪問し100%回収を達成しました。掲載しているのはその結果を報じた「栃木私教連情報」の一部です。他の8校分のデータもこの後に掲載しています。栃木では全国の調査結果とともに、県当局、県マスコミにこの実態を発表し私学助成拡充を訴えています。

# 栃木私教連情報

栃木私教連 書記局  
NO.21  
2016年10月24日

秋の県内私学訪問終了、滞納調査今回も100%回収

滞納は全体に減少するも学年進行とともに増加傾向、退学者は1名

### 【 A校 】

離婚のため母子家庭となり、非正規で働いているため祖父母が苦しい中生活費の面倒を見ている。生徒本人は不登校気味。

### 【 B校 】

長期滞納者が1名いるが、経済的に深刻な状況ではなく支援金の戻りを充て込んで払わないという様子が伺える。他も1.5~2倍加算の世帯に滞納が多い。

事務の対応が大変になるが事務員の増員は経営上困難。したがって給付型奨学金は事務長自身が担当。外国人家庭は親が書類を書けず生徒に説明して書かせている。給付型の9/12のメットに何とか間に合った。今年から他県は個人で申し込むことになったが複雑な家庭もあるので心配。

年収が2・3年次に増えた家庭は授業料を徴収しなければならなくなるので大変。

### 【 C校 】

全国を見ると、授業料のみの支援か学費の支援かさまたが統一(学費)してもらいたい。栃木では15年ほど前に授業料値上げをせざるを得なかったときに学事課からの指導が入り、「授業料は上げるな」ということで「私設備費」「教育振興費」などという形になった。

### 【 D校 】

毎回詳細な資料提供をいただきありがたい。

滞納・退学は減ったという実感がある。部活等で県外から来ている家庭の生徒は手続きが心配。

入学金補助制度があれば生徒増も見込める。合格したので手続きに来ない生徒もあり、入学金の工面ができなかったのではと予想される。制服代を分納できないかという声もあるが業者のことなので難しい。

夏休みに私中高連役員と知事の懇談(交渉?)を行なった。県内だけで私学生徒は集まらない。関東から集めなければならず、そのためには他県よりも遅れている制度を拡充することも必要。

### 【 E校 】

母子家庭で家計が極めて厳しい状況で、母親も転職したが脱出困難とも思える。

中学からは内部進学が基本だが、中学ですでに4~5名の滞納者があり、高校は公立へ通わせたいという声も出ている。内2名は母子家庭、1名は転職後まもなく、もう1名は個人事業者。できれば続けさせたい。

高3で滞納もいる。双子で弟も私学(他校)、兄が高校を止め大検を考えたいと言っているが、アルバイトしながらでも続けられないか相談中。(授業料減免の対象にはなっていない)

姉(高3)妹(中3)で姉妹校に通っているが、入学から3年目で両方とも滞納。(家は個人事業)

高校からの入学者と中学入学者を比較してみると、公立中が(言葉などの点で)すさんでいる様子が感じられ、それを避け「心静かに教育を受けさせたい」という思いから中学入学を希望する家庭もあるのでは。最近では繊細な子が増えている。中学入学者の1~2名はいじめあっている。

校内でも家計急変家庭のための奨学金制度(貸与)あり。月額5万円まで。3~4万円の範囲で7割くらいの生徒が尾根気を受けている。

### 【 F校 】

中学入学者の中にやはりいじめが理由の生徒が多い。発達障害のケースもある。

1.5倍加算の家庭でも滞納がある。子どもの教育費よりも生活費を優先させている傾向がある。むしろ2.5倍の家庭の力がきちんと納入指標とする姿勢がある。

会計上滞納(特に年度末)は処理が大変。保証人制度も最近役に立たない。年度途中での家計急変による減免制度の申請者も結構いる。作業量が大変で事務員1人必要だが増員はできない。

「9月末学費滞納調査」の締切は10月31日です。1学園でも多くのデータを集めよう!

7月の文部科学省要請では、2017年度の見直し議論にかかわって「国も地方も政策効果の検証がこれから最重要課題になる」と述べています。この滞納調査は政策効果と次の課題をあらわす重要なデータとして捉えられています。この点に立って茨城私教連はすでに春の倍の数のデータを集約し送付しています。各都道府県においても取り組みを強めてください。